

# 西光寺だより

第二九号 令和三年 五月一日発行

京都西本願寺で「春の法要」が四月十三日から十五日まで営まれました。その際に、ご門主が『浄土真宗のみ教え』を示されました。阿弥陀さまに救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道を歩まれた親鸞聖人の生き方をわかりやすく伝わるよう、ここにこの肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

## 浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声

私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて

この愚身（み）をまかす このままで

救い取られる 自然（じねん）の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依（よ）りどころに生きる者 となり

少しづつ 執（とら）われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかにに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

親鸞聖人がご誕生され、浄土真宗のみ教えを説き示してくださったことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきましょう。

合掌

## ◆先月の報告◆

四月四日（日）西光寺本堂にて追弔会・春季永代経法要を厳修致しました。講の物故者五人のお仲間を偲んで阿弥陀経のお勤めの中お焼香をさせていただき追弔会を行い、その後、西光寺が永代に続くよう皆さまの先人を偲び正信偈のお勤め、春季永代経法要をお勤め致しました。

こういう時なのでご法話は中止とし、換気を行いながら時間を短くしてのご法要でありました。

そして、「散る桜 残る桜も 散る桜」の詩をご紹介しました。

散る桜もある、けれど残っている桜もある、けれどその残っている桜もいずれ散っていくかなければならない。いずれはみな散る桜であるその無常の姿をわが命として読まれた詩であります。

浄土真宗に生きる私たちは、いずれ散ってゆく先の地面は、先人も皆さんも必ず往くお浄土であります。行き着く先はみな同じお浄土である安心があるからこそ、いっとうなるかわからない無常の世界を力いっぱい生き抜くことができる。

この詩を通して、そんなお時間を過ごしたことであります。



# ●今月のことば●

桜散る こぼるる梅に 椿落つ

牡丹崩れて 舞うは菊なり

前にも述べました桜の花は散るといふ詩でありましたが、梅の花は私たちの目の高さくらいに咲き、最後は涙のようにポロポロとこぼれていく、だから梅はこぼれるというふうであります。

この詩には、それぞれの花にはそれぞれの終わりがあり、単純に終わりというわけではなく、それぞれの在り方を表したなんとも深い味わいを感じることであります。

では私たち人間はどうでしょう。私たち人間の最後にはどのような表現が用いられるでしょう。一般的には「死」という言葉ですが、「死んだら終わり」というような言い方も耳にします。

しかし、私たちのいのちの終え方も「死」「終わり」とひとくくりにすることはできないのではないのでしょうか。

私たち人間もそれぞれの最後があります。

散ってしまうようないのちの終え方もあれば、最後までしがみついたり、しぼんだり、崩れたりするようないのちもあるのではないのでしょうか。

親鸞聖人は飢饉や災害などで多くの老若男女が亡くなられたその現実を悲しまれるとともに、「南無阿弥陀仏のお念仏をいただく者は、必ずお浄土に往生生まれる仲間と定まるのだから臨終の善悪を問わない」とおっしゃっています。

このことは、「この世のいのちを終えたあなたを必ず我が国に生まれさせる」どのような臨終を迎えようとも、あなたは仏になる身に定まっているから安心して自分の人生を歩んでおくれ」という阿弥陀さまのお呼び声を示してくださっています。

その阿弥陀さまと出遇えたよるこびと大きな安心をいただきながら、お念仏の人生を歩みなさいという親鸞聖人のお心を感じることであります。

「死」「終わり」と表現するのは私たち人間の見方。阿弥陀さまは「仏としてのいのちの始まり」「生まれるんだ」と、私のいのちを見ておられます。

わたしたちにとって亡き方は大切な方。その方がいのちの終え、私たちを見守って下さる大切な仏さまとして生まれて下さる。

「死」ではなく「生まれる」

そのお心を抱きながらどのような臨終を迎えても大丈夫だという大きな安心の中、お念仏の人生を歩ませていただきましたいものであります。

《本願寺新報より》

## 令和3年度西光寺行事予定

4月 4日 (日)	追弔会・春季永代経法要	14時
8月15日 (日)	盂蘭盆会法要	18時
9月 (未定)	大谷本廟墓参《みのり講・穂積講》	
10月 (未定)	秋季永代経法要	14時・19時
11月23日 (火・祝)	報恩講法要	14時・19時
12月31日 (金)	除夜会	

令和4年

1月 1日 (土) 元旦会

## 令和3年度茨木東組行事

- 6月 聖跡巡拝バスツアー 中止
- 12月 第33回茨木東組念仏奉仕団 中止